

## 平成 22 年度 佐賀大学 2 次試験前期日程 (数学問題)

## 理工・農・文化教育学部 平成 22 年 2 月 25 日

- 理工学部 ① ② ③ ④ 数 I・II・III・A・B・C (120 分)
- 農学部 ① ⑤ ⑥ ⑦ 数 I・II・A・B (120 分)
- 文化教育学部 ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ 数 I・II・A・B (100 分)

① 空間に定点  $A(-4, 0, 4\sqrt{3})$  と動点  $P(-t, t-2, 2\sqrt{3})$ ,  $Q(t, t^2+t-3, 0)$  がある. 原点を  $O$  とするとき, 次の問いに答えよ.

- (1)  $t=0$  のとき,  $\angle POQ$  の大きさを求めよ.
- (2)  $|\overrightarrow{OP}|$  の最小値と, そのときの  $t$  の値を求めよ.
- (3) 4 点  $O, A, P, Q$  が同一平面上にあるときの  $t$  の値をすべて求めよ.

② 座標平面上で, 直線  $l: y = mx$  に関する対称移動によって, 点  $P(x, y)$  が点  $Q(x', y')$  に移ったとする. ただし,  $m$  は 0 でない定数とし, 点  $P$  は  $l$  上にないとする. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) 線分  $PQ$  の中点が  $l$  上にあることと, 線分  $PQ$  が  $l$  と垂直に交わっていることを利用して

$$\begin{pmatrix} x' \\ y' \end{pmatrix} = \frac{1}{1+m^2} \begin{pmatrix} 1-m^2 & 2m \\ 2m & m^2-1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$$

が成り立つことを示せ.

- (2) 直線  $y = \frac{1}{\sqrt{3}}x$ ,  $y = -\frac{1}{\sqrt{3}}x$  に関する対称移動を表す 1 次変換をそれぞれ  $f, g$  とする. このとき, 合成変換  $g \circ f$  および  $f \circ g$  を表す行列を求めよ.
- (3) (2) で求めた 2 つの行列は, 原点  $O$  を中心とし, 角  $\theta$  だけ回転する 1 次変換を表す行列である. それぞれの  $\theta$  を求めよ.

**3** 曲線  $C$  を  $y = e^x$  とする.  $C$  上の点  $A_0(0, 1)$  における接線と  $x$  軸の交点を  $B_1(b_1, 0)$  とし,  $C$  上の点  $A_1(b_1, e^{b_1})$  における接線と  $x$  軸の交点を  $B_2(b_2, 0)$  とする. これをくりかえし,  $C$  上の点  $A_n(b_n, e^{b_n})$  における接線と  $x$  軸の交点を  $B_{n+1}(b_{n+1}, 0)$  とする. このとき, 次の問いに答えよ.

(1)  $b_1$  を求めよ.

(2)  $b_{n+1}$  と  $b_n$  の関係式を求め, 一般項  $b_n$  を求めよ.

(3)  $\triangle B_n A_n B_{n+1}$  の面積を  $S_n$  とするとき,  $\sum_{n=0}^{\infty} S_n$  を求めよ. ただし,  $B_0$  は原点とする.

**4**  $e$  は自然対数の底,  $a, b, c$  は実数である. 放物線  $y = ax^2 + b$  を  $C_1$  とし, 曲線  $y = c \log x$  を  $C_2$  とする.  $C_1$  と  $C_2$  が点  $P(e, e)$  で接しているとき, 次の問いに答えよ. ここで, 2つの曲線が点  $P$  で接しているとは, ともに点  $P$  を通り, かつ, その点における接線が一致していることである.

(1)  $a, b, c$  の値を求めよ.

(2)  $C_1, C_2$  および  $x$  軸,  $y$  軸とで囲まれた図形の面積を求めよ.

**5** 数列  $\{a_n\}$  が

$$a_1 = 2, \quad a_{n+1} = 2a_n + 2 \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

で定義されるとき, 次の問いに答えよ.

(1) すべての自然数  $n$  に対して  $a_{n+1} + b = 2(a_n + b)$  が成り立つような定数  $b$  を求めよ.

(2) 一般項  $a_n$  を求めよ.

(3)  $\frac{a_{2n}}{a_n} \geq 10^{25} + 1$  をみたす最小の自然数  $n$  を求めよ. ただし,  $\log_{10} 2 = 0.3010$  とする.

**6**  $\theta$  の関数  $f(\theta) = A \sin(\theta + \alpha)$  は  $f(0^\circ) = 1, f(90^\circ) = 1$  をみたしている. ただし,  $A > 0, 0^\circ \leq \alpha < 360^\circ$  とする. このとき, 次の問いに答えよ.

(1)  $A$  と  $\alpha$  を求めよ.

(2)  $f(\alpha + 30^\circ)$  と  $\sin(\alpha + 30^\circ) \cos(\alpha + 30^\circ)$  を求めよ.

(3)  $\theta$  の関数  $g(\theta)$  は

$$\begin{aligned} \{f(\theta)\}^2 g(\theta) - k\{f(\theta)\}^2 &= 2\{g(\theta)\}^2 - 2kg(\theta) + g(\theta) - \frac{1}{4} \\ g(\alpha + 30^\circ) &= \sin(\alpha + 30^\circ) \cos(\alpha + 30^\circ) \end{aligned}$$

をみたしている. 実数  $k$  と  $g(\theta)$  を求めよ.

7 放物線  $y = -x^2 + 6x - 7$  を  $C_1$  とし、 $C_1$  の頂点を A、 $C_1$  上の点  $(1, -2)$  を B とする。点 A、B を通る直線を  $l$  とし、点 A、B を通る放物線  $y = ax^2 + bx + c$  を  $C_2$  とする。ただし、 $a, b, c$  は実数、 $a > 0$  である。このとき、次の問いに答えよ。

- (1) 点 A の座標を求めよ。
- (2) 直線  $l$  の方程式を求めよ。
- (3)  $b$  と  $c$  を  $a$  を用いて表せ。
- (4)  $C_2$  と  $l$  で囲まれた図形の面積を  $a$  を用いて表せ。

8 以下の問いに答えよ。

- (1) 等式  $2 \sin k\theta \sin \frac{\theta}{2} = \cos \left(k - \frac{1}{2}\right)\theta - \cos \left(k + \frac{1}{2}\right)\theta$  を示せ。
- (2)  $n$  が自然数のとき、 $S_n = \sum_{k=1}^n \sin k\theta$  を求めよ。

9 以下の問いに答えよ。

- (1)  $n$  と  $r$  を自然数とする。
  - (i)  $n \geq 2, r \leq n - 1$  のとき  ${}_n C_r = {}_{n-1} C_{r-1} + {}_{n-1} C_r$  を示せ。
  - (ii)  $n \geq 3, r \leq n - 2$  のとき  ${}_n C_r = {}_{n-1} C_{r-1} + {}_{n-2} C_{r-1} + {}_{n-2} C_r$  を示せ。
  - (iii)  $n \geq 2, r \leq n - 1$  のとき  ${}_n C_r = \sum_{k=1}^{n-r} {}_{n-k} C_{r-1} + {}_r C_r$  を示せ。
- (2) 「あるアイスクリーム店で、6 種類のアイスクリームから通常の半額で 3 種類のアイスクリームを選べるという、格安 3 点セールを実施している。異なる 3 種類の組合せは何通りあるか答えよ。」という問題に対して、以下のような答案があった。これを詳しく解説せよ。

(答案) まず  $4 + 3 + 2 + 1 = 10$  である。

次に  $3 + 2 + 1 = 6$  となる。

さらに  $2 + 1 = 3$  である。

最後に 1 がある。

よって  $10 + 6 + 3 + 1 = 20$  なので求める組合せは 20 通りである。

**10** 次の定理を証明せよ.

「三角形の3本の中線は1点で交わり, 各中線はその交点でそれぞれ2:1に内分される。」

**11**  $p$  を  $0 < p < 1$  を満たす定数とする. 関数  $y = x^3 - (3p + 2)x^2 + 8px$  の区間  $0 \leq x \leq 1$  における最大値と最小値を求めよ.

## 解答例

$$\boxed{1} \quad (1) \quad t=0 \text{ のとき } \vec{OP} = (0, -2, 2\sqrt{3}), \vec{OQ} = (0, -3, 0)$$

$$\text{ゆえに } |\vec{OP}| = 4, |\vec{OQ}| = 3, \vec{OP} \cdot \vec{OQ} = 6$$

$$\text{したがって } \cos \angle POQ = \frac{\vec{OP} \cdot \vec{OQ}}{|\vec{OP}| |\vec{OQ}|} = \frac{6}{4 \cdot 3} = \frac{1}{2}$$

$$\text{よって } \angle POQ = 60^\circ$$

$$(2) \quad \vec{OP} = (-t, t-2, 2\sqrt{3}) \text{ より}$$

$$\begin{aligned} |\vec{OP}|^2 &= (-t)^2 + (t-2)^2 + (2\sqrt{3})^2 = 2t^2 - 4t + 16 \\ &= 2(t-1)^2 + 14 \end{aligned}$$

$$\text{よって } t=1 \text{ のとき最小値 } \sqrt{14}$$

$$(3) \quad 4 \text{ 点 } O, A, P, Q \text{ が同一平面上にあるとき}$$

$$\vec{OA} = (-4, 0, 4\sqrt{3}), \vec{OP} = (-t, t-2, 2\sqrt{3}), \vec{OQ} = (t, t^2+t-3, 0)$$

は、1次従属である。したがって

$$\alpha \vec{OA} + \beta \vec{OP} + \gamma \vec{OQ} = \vec{0}$$

をみたす  $\alpha, \beta, \gamma$  が,  $\alpha = \beta = \gamma = 0$  以外に存在する。

$$\alpha \begin{pmatrix} -4 \\ 0 \\ 4\sqrt{3} \end{pmatrix} + \beta \begin{pmatrix} -t \\ t-2 \\ 2\sqrt{3} \end{pmatrix} + \gamma \begin{pmatrix} t \\ t^2+t-3 \\ 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} \quad \dots (*)$$

上のベクトルの  $z$  成分から  $\beta = -2\alpha \dots \textcircled{1}$  であるから

$$\begin{aligned} \alpha \begin{pmatrix} -4 \\ 0 \\ 4\sqrt{3} \end{pmatrix} - 2\alpha \begin{pmatrix} -t \\ t-2 \\ 2\sqrt{3} \end{pmatrix} + \gamma \begin{pmatrix} t \\ t^2+t-3 \\ 0 \end{pmatrix} &= \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} \\ \alpha \begin{pmatrix} 2t-4 \\ -2t+4 \\ 0 \end{pmatrix} + \gamma \begin{pmatrix} t \\ t^2+t-3 \\ 0 \end{pmatrix} &= \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{したがって} \quad \alpha \begin{pmatrix} 2t-4 \\ -2t+4 \end{pmatrix} + \gamma \begin{pmatrix} t \\ t^2+t-3 \end{pmatrix} &= \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix} \\ \begin{pmatrix} 2t-4 & t \\ -2t+4 & t^2+t-3 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \alpha \\ \gamma \end{pmatrix} &= \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

行列  $\begin{pmatrix} 2t-4 & t \\ -2t+4 & t^2+t-3 \end{pmatrix} \cdots (**)$  が正則であるとき

$$\begin{pmatrix} \alpha \\ \gamma \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix}$$

このとき、①より、 $\alpha = \beta = \gamma = 0$  となり、 $\overrightarrow{OA}$ ,  $\overrightarrow{OP}$ ,  $\overrightarrow{OQ}$  は1次独立であり、1次従属ではない。

したがって、行列(\*\*)は正則ではないから

$$\begin{aligned} (2t-4)(t^2+t-3) - (-2t+4)t &= 0 \\ (t-2)(t^2+2t-3) &= 0 \\ (t-2)(t-1)(t+3) &= 0 \end{aligned}$$

よって  $t = -3, 1, 2$

$$\text{別解 (*) より} \quad \begin{pmatrix} -4 & -t & t \\ 0 & t-2 & t^2+t-3 \\ 4\sqrt{3} & 2\sqrt{3} & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$$

$$\begin{aligned} \det \begin{pmatrix} -4 & -t & t \\ 0 & t-2 & t^2+t-3 \\ 4\sqrt{3} & 2\sqrt{3} & 0 \end{pmatrix} &= \det \begin{pmatrix} -4 & -t & t \\ 0 & t-2 & t^2+t-3 \\ 0 & -\sqrt{3}(t-2) & \sqrt{3}t \end{pmatrix} \\ &= -4 \det \begin{pmatrix} t-2 & t^2+t-3 \\ -\sqrt{3}(t-2) & \sqrt{3}t \end{pmatrix} \\ &= -4\sqrt{3}(t-2) \det \begin{pmatrix} 1 & t^2+t-3 \\ -1 & t \end{pmatrix} \\ &= -4\sqrt{3}(t-2)(t^2+2t-3) \\ &= -4\sqrt{3}(t-2)(t-1)(t+3) \end{aligned}$$

$x = y = z = 0$  以外の解をもつとき、上式は0であるから  $t = -3, 1, 2$



- 2 (1) 線分 PQ の中点の中心が  $l: y = mx$  上にあるから

$$\frac{y + y'}{2} = m \left( \frac{x + x'}{2} \right) \quad \text{ゆえに} \quad mx' - y' = -mx + y \quad \cdots \textcircled{1}$$

線分 PQ が  $l$  と垂直に交わっているから

$$m \cdot \frac{y' - y}{x' - x} = -1 \quad \text{ゆえに} \quad x' + my' = x + my \quad \cdots \textcircled{2}$$

①, ② から,  $\begin{pmatrix} m & -1 \\ 1 & m \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x' \\ y' \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -m & 1 \\ 1 & m \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$  であるから

$$\begin{aligned} \begin{pmatrix} x' \\ y' \end{pmatrix} &= \begin{pmatrix} m & -1 \\ 1 & m \end{pmatrix}^{-1} \begin{pmatrix} -m & 1 \\ 1 & m \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \\ &= \frac{1}{m^2 + 1} \begin{pmatrix} m & 1 \\ -1 & m \end{pmatrix} \begin{pmatrix} -m & 1 \\ 1 & m \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \\ &= \frac{1}{1 + m^2} \begin{pmatrix} 1 - m^2 & 2m \\ 2m & m^2 - 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \end{aligned}$$

- (2)  $f, g$  の表す行列を, それぞれ  $A, B$  とすると

$$A = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 & \sqrt{3} \\ \sqrt{3} & -1 \end{pmatrix}, \quad B = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 1 & -\sqrt{3} \\ -\sqrt{3} & -1 \end{pmatrix}$$

$g \circ f$  を表す行列  $BA$  は

$$BA = \frac{1}{4} \begin{pmatrix} 1 & -\sqrt{3} \\ -\sqrt{3} & -1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & \sqrt{3} \\ \sqrt{3} & -1 \end{pmatrix} = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} -1 & \sqrt{3} \\ -\sqrt{3} & -1 \end{pmatrix}$$

$f \circ g$  を表す行列  $AB$  は

$$AB = \frac{1}{4} \begin{pmatrix} 1 & \sqrt{3} \\ \sqrt{3} & -1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & -\sqrt{3} \\ -\sqrt{3} & -1 \end{pmatrix} = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} -1 & \sqrt{3} \\ \sqrt{3} & -1 \end{pmatrix}$$

$$(3) \quad BA = \begin{pmatrix} \cos \frac{4}{3}\pi & -\sin \frac{4}{3}\pi \\ \sin \frac{4}{3}\pi & \cos \frac{4}{3}\pi \end{pmatrix}, \quad AB = \begin{pmatrix} \cos \frac{2}{3}\pi & -\sin \frac{2}{3}\pi \\ \sin \frac{2}{3}\pi & \cos \frac{2}{3}\pi \end{pmatrix}$$

よって,  $g \circ f, f \circ g$  の表す行列は, 原点  $O$  を中心に, それぞれ  $\frac{4}{3}\pi, \frac{2}{3}\pi$  だけ回転する一次変換を表す.



**3** (1)  $y = e^x$  より  $y' = e^x$

$C$  の点  $A_0(0, 1)$  における接線の方程式は

$$y - 1 = e^0(x - 0) \quad \text{すなわち} \quad y = x + 1$$

この直線と  $x$  軸との交点の  $x$  座標が  $b_1$  であるから  $b_1 = -1$

(2)  $C$  の点  $A_n(b_n, e^{b_n})$  における接線の方程式は

$$y - e^{b_n} = e^{b_n}(x - b_n)$$

ゆえに  $y = e^{b_n}(x - b_n + 1)$

この直線と  $x$  軸との交点の  $x$  座標が  $b_{n+1}$  であるから

$$b_{n+1} - b_n + 1 = 0$$

ゆえに  $b_{n+1} = b_n - 1$

上式および  $b_1 = -1$  から  $\{b_n\}$  は

$$b_n = -1 + (n - 1) \cdot (-1) = -n$$

(3)  $B_0$  は原点であるから, (2) の結果は,  $n \geq 0$  について成り立つ.

したがって  $S_n = \frac{1}{2} B_n B_{n+1} \cdot A_n B_n = \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot e^{-n} = \frac{1}{2} e^{-n} \quad (n = 0, 1, 2, \dots)$

$0 < e^{-1} < 1$  であるから

$$\sum_{n=0}^{\infty} S_n = \frac{1}{2} \sum_{n=0}^{\infty} (e^{-1})^n = \frac{1}{2} \times \frac{1}{1 - e^{-1}} = \frac{e}{2(e - 1)}$$

■

**4** (1)  $f(x) = ax^2 + b$ ,  $g(x) = c \log x$  とおくと  $f'(x) = 2ax$ ,  $g'(x) = \frac{c}{x}$

$C_1 : y = f(x)$  と  $C_2 : y = g(x)$  が点  $P(e, e)$  で接するから

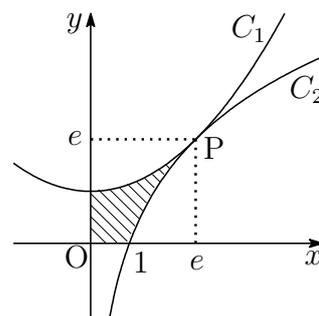
$$f(e) = g(e) = e, \quad f'(e) = g'(e)$$

したがって  $ae^2 + b = c = e, \quad 2ae = \frac{c}{e}$

これを解くと  $a = \frac{1}{2e}, \quad b = \frac{e}{2}, \quad c = e$

(2) 求める面積を  $S$  とすると, 右の図から

$$\begin{aligned}
 S &= \int_0^e \left( \frac{x^2}{2e} + \frac{e}{2} \right) dx - \int_1^e e \log x dx \\
 &= \left[ \frac{x^3}{6e} + \frac{ex}{2} \right]_0^e - e \left[ x(\log x - 1) \right]_1^e \\
 &= \frac{2}{3}e^2 - e
 \end{aligned}$$



**5** (1)  $a_{n+1} + b = 2(a_n + b)$  より  $a_{n+1} = 2a_n + b$

これが  $a_{n+1} = 2a_n + 2$  に一致するから  $b = 2$

(2) (1) の結果から  $a_{n+1} + 2 = 2(a_n + 2)$

ゆえに  $a_n + 2 = (a_1 + 2) \cdot 2^{n-1} = (2 + 2) \cdot 2^{n-1} = 2^{n+1}$

よって  $a_n = 2^{n+1} - 2$

(3) (2) の結果から

$$\frac{a_{2n}}{a_n} = \frac{2^{2n+1} - 2}{2^{n+1} - 2} = \frac{2(2^{2n} - 1)}{2(2^n - 1)} = \frac{(2^n + 1)(2^n - 1)}{2^n - 1} = 2^n + 1$$

$$\frac{a_{2n}}{a_n} \geq 10^{25} + 1 \text{ より } 2^n + 1 \geq 10^{25} + 1 \text{ ゆえに } 2^n \geq 10^{25}$$

$$\text{両辺の常用対数をとると } n \log_{10} 2 \geq 25 \text{ ゆえに } n \geq \frac{25}{\log_{10} 2}$$

$$\frac{25}{\log_{10} 2} = \frac{25}{0.3010} = 83.05 \dots \text{ より, 上式をみたす最小の } n \text{ は } n = 84 \blacksquare$$

**6** (1)  $f(0^\circ) = 1, f(90^\circ) = 1$  より

$$f(0^\circ) = A \sin(0^\circ + \alpha) = A \sin \alpha = 1 \quad \dots \textcircled{1}$$

$$f(90^\circ + \alpha) = A \sin(90^\circ + \alpha) = A \cos \alpha = 1 \quad \dots \textcircled{2}$$

上の2式から  $(A \sin \alpha)^2 + (A \cos \alpha)^2 = 1^2 + 1^2$

ゆえに  $A^2 = 2$   $A > 0$  であるから  $A = \sqrt{2}$

これと ①, ② により  $\sin \alpha = \cos \alpha = \frac{1}{\sqrt{2}}$

$0^\circ \leq \alpha < 360^\circ$  より  $\alpha = 45^\circ$

(2) (1) の結果から  $f(\theta) = \sqrt{2} \sin(\theta + 45^\circ) \quad \dots (*)$

$$\begin{aligned} f(\alpha + 30^\circ) &= f(75^\circ) \\ &= \sqrt{2} \sin(75^\circ + 45^\circ) = \sqrt{2} \sin 120^\circ \\ &= \sqrt{2} \times \frac{\sqrt{3}}{2} = \frac{\sqrt{6}}{2} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \sin(\alpha + 30^\circ) \cos(\alpha + 30^\circ) &= \sin 75^\circ \cos 75^\circ \\ &= \frac{1}{2} \sin 150^\circ = \frac{1}{2} \times \frac{1}{2} = \frac{1}{4} \end{aligned}$$

(3)  $\alpha = 45^\circ$ ,  $g(\alpha + 30^\circ) = \sin(\alpha + 30^\circ) \cos(\alpha + 30^\circ)$  および (2) の結果から

$$g(75^\circ) = \frac{1}{4}$$

(\*) に  $\theta = 75^\circ$  を代入すると

$$f(75^\circ) = \sqrt{2} \sin 120^\circ = \sqrt{2} \times \frac{\sqrt{3}}{2} = \frac{\sqrt{6}}{2}$$

$\theta = 75^\circ$  を

$$\{f(\theta)\}^2 g(\theta) - k\{f(\theta)\}^2 = 2\{g(\theta)\}^2 - 2kg(\theta) + g(\theta) - \frac{1}{4} \quad \dots \textcircled{3}$$

に代入すると

$$\left(\frac{\sqrt{6}}{2}\right)^2 \frac{1}{4} - k\left(\frac{\sqrt{6}}{2}\right)^2 = 2\left(\frac{1}{4}\right)^2 - 2k \cdot \frac{1}{4} + \frac{1}{4} - \frac{1}{4}$$

これを解いて  $k = \frac{1}{4}$

これを  $\textcircled{3}$  に代入すると

$$\begin{aligned} \{f(\theta)\}^2 g(\theta) - \frac{1}{4}\{f(\theta)\}^2 &= 2\{g(\theta)\}^2 + \frac{1}{2}g(\theta) - \frac{1}{4} \\ \{f(\theta)\}^2 \left\{g(\theta) - \frac{1}{4}\right\} &= \{2g(\theta) + 1\} \left\{g(\theta) - \frac{1}{4}\right\} \end{aligned}$$

ゆえに  $g(\theta) = \frac{1}{4}$  または  $\{f(\theta)\}^2 = 2g(\theta) + 1$

$$\begin{aligned} \text{上の第2式は (*) より } 2g(\theta) &= 2\sin^2(\theta + 45^\circ) - 1 \\ &= -\cos 2(\theta + 45^\circ) \\ &= \sin 2\theta \end{aligned}$$

よって  $g(\theta) = \frac{1}{4}$  または  $g(\theta) = \frac{1}{2} \sin 2\theta$  ■

**7** (1)  $y = -x^2 + 6x - 7 = -(x - 3)^2 + 2$  よって **A(3, 2)**

(2)  $l$  は 2 点 A(3, 2), B(1, -2) を通る直線であるから

$$y - 2 = \frac{-2 - 2}{1 - 3}(x - 3) \quad \text{すなわち} \quad y = 2x - 4$$

(3)  $y = ax^2 + bx + c$  が 2 点 A(3, 2), B(1, -2) を通るから

$$2 = 9a + 3b + c, \quad -2 = a + b + c$$

よって  **$b = -4a + 2, c = 3a - 4$**

(4)  $C_2 : y = ax^2 + (-4a + 2)x + (3a - 4)$  と  $l : y = 2x - 4$  で囲まれた図形の面積を  $S$  とすると,  $a > 0$  より

$$\begin{aligned} S &= \int_1^3 [2x - 4 - \{ax^2 + (-4a + 2)x + (3a - 4)\}] dx \\ &= -a \int_1^3 (x^2 - 4x + 3) dx \\ &= -a \int_1^3 (x - 1)(x - 3) dx \\ &= -a \left( -\frac{1}{6} \right) (3 - 1)^3 = \frac{4}{3} a \end{aligned}$$



8 (1) 加法定理により

$$\begin{aligned} & \cos\left(k - \frac{1}{2}\right)\theta - \cos\left(k + \frac{1}{2}\right)\theta \\ &= \cos k\theta \cos \frac{\theta}{2} + \sin k\theta \sin \frac{\theta}{2} - \left(\cos k\theta \cos \frac{\theta}{2} - \sin k\theta \sin \frac{\theta}{2}\right) \\ &= 2 \sin k\theta \sin \frac{\theta}{2} \end{aligned}$$

(2)  $\sin \frac{\theta}{2} \neq 0$  すなわち  $\theta \neq 2m\pi$  のとき ( $m$  は整数), (1) の結果から

$$\begin{aligned} S_n &= \sum_{k=1}^n \sin k\theta = \frac{1}{2 \sin \frac{\theta}{2}} \sum_{k=1}^n \left\{ \cos\left(k - \frac{1}{2}\right)\theta - \cos\left(k + \frac{1}{2}\right)\theta \right\} \\ &= \frac{1}{2 \sin \frac{\theta}{2}} \left\{ \cos \frac{\theta}{2} - \cos\left(n + \frac{1}{2}\right)\theta \right\} \end{aligned}$$

$\theta = 2m\pi$  のとき ( $m$  は整数)  $\sin k\theta = \sin 2km\pi = 0$

ゆえに  $S_n = \sum_{k=1}^n \sin k\theta = 0$  ■

$$\begin{aligned} \text{9 (1) (i)} \quad {}_{n-1}C_{r-1} + {}_{n-1}C_r &= \frac{(n-1)!}{(r-1)!(n-r)!} + \frac{(n-1)!}{r!(n-r-1)!} \\ &= \frac{(n-1)!}{r!(n-r)!} \{r + (n-r)\} = \frac{n!}{r!(n-r)!} = {}_n C_r \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{(ii) (i) の結果を用いて} \quad {}_n C_r &= {}_{n-1}C_{r-1} + {}_{n-1}C_r \\ &= {}_{n-1}C_{r-1} + {}_{n-2}C_{r-1} + {}_{n-2}C_r \end{aligned}$$

(iii) (i) の結果により,  ${}_{k-1}C_{r-1} = {}_k C_r - {}_{k-1}C_r$  であるから ( $k \geq r+1$ )

$$\begin{aligned} \sum_{k=r+1}^n {}_{k-1}C_{r-1} &= \sum_{k=r+1}^n ({}_k C_r - {}_{k-1}C_r) \\ &= {}_n C_r - {}_r C_r \end{aligned}$$

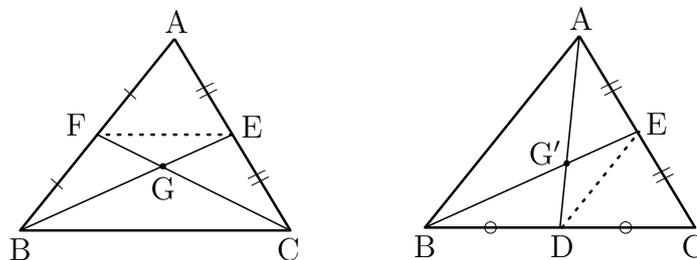
$$\begin{aligned} \text{したがって} \quad {}_n C_r &= \sum_{k=r+1}^n {}_{k-1}C_{r-1} + {}_r C_r \\ &= \sum_{k=1}^{n-r} {}_{n-k}C_{r-1} + {}_r C_r \end{aligned}$$

(2) 6種類のアイスクリームを A, B, C, D, E, F とする.

ABC, ABD, ABE, ABF	…4通り	
ACD, ACE, ACF	…3通り	
ADE, ADF	…2通り	
AEF	…1通り	ここまでに $4+3+2+1=10$ 通り
BCD, BCE, BCF	…3通り	
BDE, BDF	…2通り	
BEF	…1通り	次に $3+2+1=6$ 通り
CDE, CDF	…2通り	
CEF	…1通り	さらに $2+1=3$ 通り
DEF	…1通り	最後に 1 通り

したがって  $10+6+3+1=20$  通り ■

- 10** 証明  $\triangle ABC$  の中線  $BE$  と中線  $CF$  の交点を  $G$  とし、中線  $AD$  と中線  $BE$  の交点を  $G'$  とする。このとき、まず 2 点  $G, G'$  が一致することを示せばよい。



中点連結定理により

$$FE \parallel BC, \quad BC : FE = 2 : 1$$

となるから  $BG : GE = BC : FE = 2 : 1$

よって、点  $G$  は線分  $BE$  を  $2 : 1$  に内分する。

同様にして  $BG' : G'E = AB : ED = 2 : 1$

よって、点  $G'$  は線分  $BE$  を  $2 : 1$  に内分する。

線分  $BE$  を  $2 : 1$  に内分する点は 1 点だけであるから、2 点  $G, G'$  は一致する。

したがって、3 つの中線は点  $G$  で交わる。

また、 $AG : GD = BG : GE = CG : GF = 2 : 1$  であるから、3 つの中線の交点は各中線を  $2 : 1$  に内分する。 証終 ■

**11**  $f(x) = x^3 - (3p + 2)x^2 + 8px$  とおくと

$$f'(x) = 3x^2 - 2(3p + 2)x + 8p = (3x - 4)(x - 2p)$$

(i)  $2p \geq 1$  すなわち  $\frac{1}{2} \leq p < 1$  のとき

$f(x)$  は,  $0 \leq x \leq 1$  で単調増加であるから

$$\text{最大値 } f(1) = 5p - 1, \text{ 最小値 } f(0) = 0$$

(ii)  $0 < 2p < 1$  すなわち  $0 < p < \frac{1}{2}$  のとき,  $f(x)$  の増減表は

$x$	0	...	$2p$	...	1
$f'(x)$		+	0	-	
$f(x)$	0	↗	$4p^2(2-p)$	↘	$5p-1$

$$\text{最大値 } f(2p) = 4p^2(2-p), \text{ 最小値 } \begin{cases} f(1) = 5p - 1 & (0 < p < \frac{1}{5}) \\ f(0) = 0 & (\frac{1}{5} \leq p < \frac{1}{2}) \end{cases}$$

(i), (ii) より

$$0 < p < \frac{1}{5} \text{ のとき } \quad \text{最大値 } 4p^2(2-p), \quad \text{最小値 } 5p-1$$

$$\frac{1}{5} \leq p < \frac{1}{2} \text{ のとき } \quad \text{最大値 } 4p^2(2-p), \quad \text{最小値 } 0$$

$$\frac{1}{2} \leq p < 1 \text{ のとき } \quad \text{最大値 } 5p-1, \quad \text{最小値 } 0$$

